



第1回学生対抗九州観光ビジネスプランコンテストで 優秀賞を受賞

【概要】

令和4(2022)年12月11日(日)、一般社団法人九州観光機構が主催する第1回学生対抗九州観光ビジネスプランコンテストが行われ、チームKAMOZ(経済学部3年・丸山美陽さん、理工学部3年・山田啓介さん、同3年・永田葉菜さん)が優秀賞に選ばれました。

【本文】

第1回(2022)学生対抗九州観光ビジネスプランコンテスト(主催:一般社団法人九州観光機構、後援:九州運輸局・九州経済産業局・九州経済連合会)において、全20大学から応募のあった48チームのうち、佐賀大学のチームKAMOZが上位10チームに選出されました。また、令和4年12月11日(日)、電気ビルみらいホール(福岡市)で行われた本選でのプレゼンテーションの結果、見事に優秀賞を受賞しました。

優秀賞に輝いたのは、経済学部3年・丸山美陽さん、理工学部3年・山田啓介さん、同3年・永田葉菜さんの3名によるチームです。教養教育科目・地域創生学IIIで提案作業に取り組んでエントリーし、最終的には地域創生学IV(担当教員:理工学部・三島伸雄教授)の授業の一環として応募したものです。

提案内容は、「追尾式運搬ロボット付 人力車サービス~KAMOZ~」です。佐賀県嬉野市に新幹線新駅が2022年9月に整備・開業されましたが、温泉街まで徒歩では遠い中途半端な距離があり、かつ経路上に魅力的な観光スポットがないことを逆手に利用し、「伝統×最新技術」でそれ自体が観光になる輸送サービスを提案しました。伝統として利用したのは「人力車」であり、最新技術は「追尾式運搬ロボット」です。追尾式運搬ロボットは、本学理工学部・佐藤和也研究室が実用に向けて開発した「収穫物搬送用自動追尾ロボット車」の応用を目論んでいます。これに、嬉野温泉駅~嬉野みゆき公園~田園~温泉街といった公道を通らない新たな専用ルートを設置することで警察許可が必要な自動運転車利用の問題解決を図り、かつ、ドローンによる撮影等のオプションサービスを加えることにより、外国人観光客等にクールジャパンを実感させるとともに、若者と地域の結びつきを高めることや、さらに、その資金計画、体制等も提案しました。その結果、地方観光の課題である交通にチャレンジしたことが高く評価され、受賞に至りました。

なお、本提案は、嬉野市と理工学部との連携協定に基づく取り組みです。ここに、表彰された学生たちの栄誉を讃えたいと思います。

※第1回学生対抗九州観光ビジネスプランコンテストのホームページ

<https://www.welcomekyushu.jp/bpc/>



優秀賞受賞記念写真

左から、経済学部・丸山 美陽さん，JAL 九州支社長，理工学部・永田 葉菜さん，同・山田 啓介さん